



北海道大学のデータ駆動型融合研究創発拠点(DIRED)を立ち上げ、拠点長を務める。人工知能(AI)を用いた先端研究の社会実装を目指す、官民との共同研究やデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進に取り組んでいる。北大工学部を卒業し、1993年に工学博士号を取得した。ワシントン大学客員准教授や北大工学研究科助教授を経て、2006年に北大情報科学研究科教授に就いた。専門分野はAIやIoT(モノのインターネット化)、ビッグデータ解析だ。「応用されて初めて研究の意義がある。民間企業や官公庁との共同研究を通じて、インフラ設備の維持管理や胃がんリスク判定に役立つAIの



北海道大学大学院情報科学研究科教授
はせやま みき
長谷山 美紀さん

AI研究、社会実装に重点

道全土DX、けん引に意欲

フェイスに漂う自由な空気に魅了された。「いつか北大にもつくりたいと思いついてきた」。フロアごとに鮮やかなテーマカラーを取り入れ、館内のトイレには女性研究者に配慮した化粧スペースも併設した。

開発を手がけてきた。社会実装を重視する研究スタイルで研究費を獲得し、学生からの人気は高まり、主宰するメディアを目標することで社会のDXをけん引したい。開発を主導したAIの無料リスケリング講座は道内企業や自治体など150機関以上が採用している。

DIREDは産官学共同研究の推進拠点として22年に立ち上げた。東日本高速道路(NEXCO東日本)やニトリ、住友ゴムが入居し、インフラや災害医療、ライフスタイルイノベーション、材料分野の研究が進む。北大発スタートアップのKAI技研(横浜市)とは、現在副学長を兼任する半導体製造データ解析にAIを用いて歩留まり向上を目指す。

24年にリニューアルした拠点の内装には長谷山さんのこだわりが詰まっている。20年ほど前に米西海岸の企業を訪れ、オ